

# 熊本工に春切符

## 2026 SPRING KOSHIIEN

### 春夏通算45回目の古豪健在

MAINICHI

# 新毎日

1月30日(金)  
2026年(令和8年)

発行所：北九州市小倉北区榭屋町13-1  
〒802-8651 電話(093)541-3131  
毎日新聞西部本社

## センバツ 決定 特別号外 3月19日 開幕

1898年、熊本県工業学校として創立した県立校。1960年には定時制も創設された。全校生徒数は1181人（1月9日現在）で、男女共学。機械や電気、土木など10学科があり、就職率は100%。4万6000人を超える卒業生が各分野で

#### 学校プロフィール

活躍する。校訓は「明朗真摯」はベスト4の実績がある。野球「創意工夫」「友愛協調」。部OBに元巨人監督の故川上哲也。野球部は1923年創部。地 治さん、元広島の前田智徳さん

**OBに元巨人監督・川上哲治さんら**

元の高球界をリードしてきた 元中日の荒木雅博さんら。他の強豪で甲子園出場は春夏通算45 部活動も盛んで、吹奏楽部も全回目を誇る。夏に準優勝3回、春 国大会の常連として知られる。



センバツに出場する熊本工の選手ら

## 粘り強さが真骨頂

チームは県予選と九州地区大会の計8試合で失策5、失点9と堅守を見せた。九州地区大会では3試合で6盗塁を決めるなど機動力も光る。足を絡めて相手にプレッシャーをかけたがら中軸の山口悠悟選手（2年）、井藤啓稀主将（同）の強打で走者を還すのが攻撃の形だ。山口選手は九州地区大会で12打数8安打7打点と打線のけん引役を果たし、聖地でも「全員がつなく意識を持ち、上を目指したい」と意気込む。

背番号4のエース、堤大輔投手（2年）を中心に粘り強く守り、接戦をものにする勝負強さが持ち味だ。県予選は5試合で計45安打36得点と打線が活発だったが、粘りのチームが真骨頂を発揮したのは県予選決勝の有明戦だった。好投手による投げ合いとなった試合は両チームとも無得点のまま最終回まで進み、九回、内野安打の間に1点をもぎとってサヨナラ勝ち。26季ぶり32回目の優勝に輝いた。

九州地区大会でも堤投手を中心に躍進した。福岡大大濠（福岡2位）に4-1で快勝すると、準々決勝の日本ウェルネス（沖繩2位）戦では本塁打で先制を許しながらも小刻みに加算。切れ目のない打線が威力を発揮し、6-1で押し切った。長崎日大（長崎1位）との準決勝は敗れはしたものの、終盤までリードを奪い地力を見せた。

## 9年ぶり22回目

第98回選抜高校野球大会（毎日新聞社、日本高校野球連盟主催、朝日新聞社後援、阪神甲子園球場特別協力）の出場32校を決める選考委員会が30日、大阪市北区の毎日新聞大阪本社（熊本市）のオーバルホールであり、熊本県からは熊本工（熊本市）が選ばれた。センバツ出場は2017年以来9年ぶり22回目で、甲子園出場は春夏通算45回目となる。25年秋の県予選で優勝し、九州地区大会では4強入りした。記憶に残る数々の名勝負を甲子園で繰り広げてきた古豪の活躍に注目が集まる。大会は3月6日に組み合わせ抽選会があり、同19日に阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）で開幕する。【野呂賢治】

応援できる幸せを、  
ありがとう。



日が暮れるまで、ボールを追いかけて。  
夢中でバットを振って、手にまめをつくって。  
いつしかその背中は、たくましく、大きくなって。  
試合を観るたび、あなたの活躍がうれしくて、たまるなくて。  
悩んでいるときは、なにかできることはないかと探したりして。  
気づけば、自分のことのように勝利を願っていて。  
ありがとう。応援できる幸せを教えてください。  
今日までの努力の日々を信じて。  
春へ、いってらっしゃい。





鋭いスイングで快音を響かせる山口悠悟選手



力投する堤大輔投手

# 全員つなぐ意識で上を目指せ



重量のあるハンマーを使ったトレーニングに励む選手ら



打撃練習に励む選手ら



アップをする選手ら



トレーニングをする選手ら



毎日新聞ご購入の申し込みは毎日お客様サービスネットへ

[mainet](https://mainet)

ご購入、ご試読の申し込み  
未配達時のお届けなど  
<https://mainet.ne.jp/>

フリーダイヤル ヨムハマイニチ

**0120-468012**

毎日新聞ニュースサイト

<https://mainichi.jp/>